

2 国産原料の使用実態と課題

(1) 国産原料の仕入額割合

ア 生産額に占める原料全体の仕入割合

生産額に占める原料全体の仕入額割合は、**36.9%**（1社1票の回答で企業規模の大小に基づくウェイト付けを行っていない単純平均値である。）となっている。**内訳をみると、「30%未満」が40%（企業数割合）、「30%以上50%未満」が31%、「50%以上80%未満」が25%**となっている。

業種別にみると、割合が高い業種は砂糖製造業、畜産食料品製造業、水産食料品、その他製造業等、一方、割合が低い業種は酒類製造業、調味料製造業、菓子製造業、飲料製造業となっている。

図5 生産額に占める原料仕入額の割合

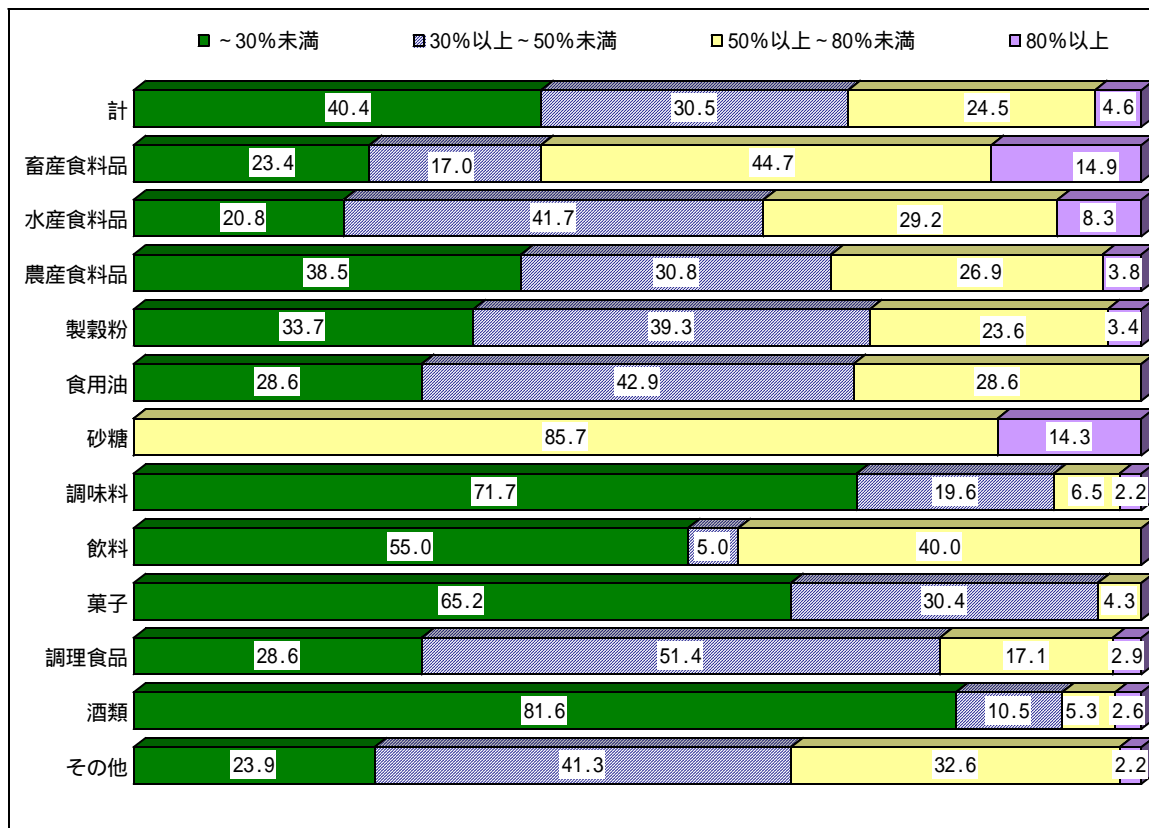


表5 生産額に占める原料仕入額の割合

		回答数	計	~30%未 満	30%以上 ~50%未 満	50%以上 ~80%未 満	80%以上	平均値
		(社)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
計		433	100.0	40.4	30.5	24.5	4.6	36.9
資本金規模別	~1,000万円未満	13	100.0	38.5	23.1	23.1	15.4	43.0
	1,000万円以上~ 2,000万円未満	85	100.0	44.7	32.9	20.0	2.4	34.0
	2,000万円以上~ 5,000万円未満	154	100.0	37.7	35.7	21.4	5.2	37.5
	5,000万円以上~ 1億円未満	73	100.0	37.0	31.5	26.0	5.5	38.0
	1億円以上~ 3億円未満	51	100.0	37.3	25.5	35.3	2.0	37.4
	3億円以上~ 10億円未満	29	100.0	55.2	17.2	24.1	3.4	32.8
	10億円以上	26	100.0	38.5	19.2	34.6	7.7	42.4
	無回答	2	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	19.8
業種別	畜産食料品	47	100.0	23.4	17.0	44.7	14.9	52.0
	水産食料品	48	100.0	20.8	41.7	29.2	8.3	45.1
	農産食料品	26	100.0	38.5	30.8	26.9	3.8	37.5
	製穀粉	89	100.0	33.7	39.3	23.6	3.4	38.6
	食用油	7	100.0	28.6	42.9	28.6	0.0	39.8
	砂糖	7	100.0	0.0	0.0	85.7	14.3	62.4
	調味料	46	100.0	71.7	19.6	6.5	2.2	22.3
	飲料	20	100.0	55.0	5.0	40.0	0.0	34.1
	菓子	23	100.0	65.2	30.4	4.3	0.0	23.8
	調理食品	35	100.0	28.6	51.4	17.1	2.9	37.9
	酒類	38	100.0	81.6	10.5	5.3	2.6	19.8
	その他	46	100.0	23.9	41.3	32.6	2.2	41.5
無回答	1	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	3.3	

イ 原料仕入額に占める国産原料の割合

原料仕入額に占める原料全体の仕入額割合は、57.6%（1社1票の回答で企業規模の大小に基づくウェイト付けを行っていない単純平均値である。）となっている。内訳をみると、「30%未満」が29%（企業数割合）、「30%以上50%未満」が12%、「50%以上80%未満」が16%、「80%以上」が42%となっている。

業種別にみると、割合が高い業種は酒類製造業、砂糖製造業、畜産食料品製造業、飲料製造業、菓子製造業、その他製造業等、一方、割合が低い業種は製穀粉製造業、食用油製造業、調理食品製造業、調味料製造業等となっている。

図6 原料仕入額に占める国産原料の割合

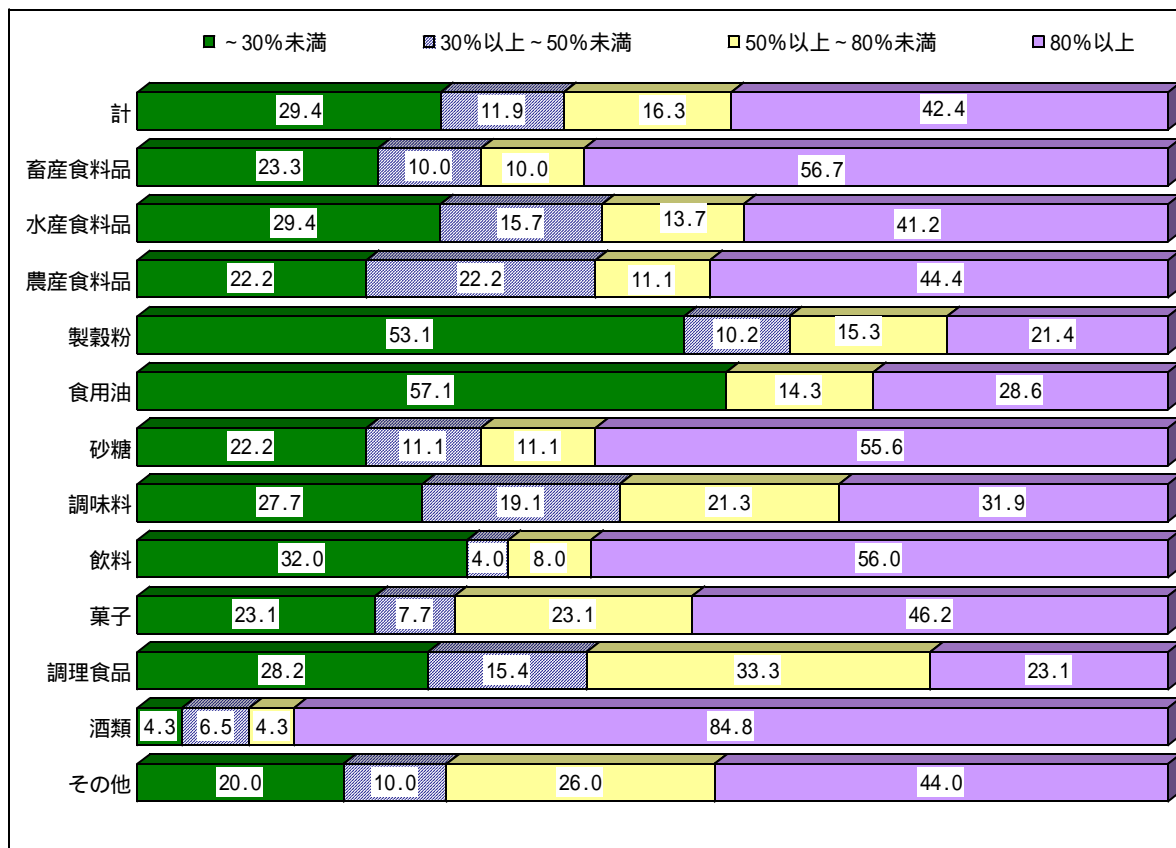


表6 原料仕入額に占める国産原料の割合

		回答数	計	~30%未 満	30%以上 ~50%未 満	50%以上 ~80%未 満	80%以上	平均値
		(社)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
計		486	100.0	29.4	11.9	16.3	42.4	57.6
資 本 金 規 模 別	~1,000万円未満	19	100.0	21.1	10.5	21.1	47.4	62.1
	1,000万円以上~ 2,000万円未満	96	100.0	21.9	15.6	17.7	44.8	61.6
	2,000万円以上~ 5,000万円未満	165	100.0	27.3	9.7	16.4	46.7	60.0
	5,000万円以上~ 1億円未満	85	100.0	37.6	7.1	15.3	40.0	54.2
	1億円以上~ 3億円未満	57	100.0	33.3	10.5	14.0	42.1	57.1
	3億円以上~ 10億円未満	31	100.0	35.5	16.1	6.5	41.9	54.6
	10億円以上	31	100.0	35.5	25.8	22.6	16.1	42.4
	無回答	2	100.0	0.0	0.0	50.0	50.0	75.0
	業 種 別	畜産食料品	60	100.0	23.3	10.0	10.0	56.7
水産食料品		51	100.0	29.4	15.7	13.7	41.2	55.2
農産食料品		27	100.0	22.2	22.2	11.1	44.4	58.9
製穀粉		98	100.0	53.1	10.2	15.3	21.4	37.2
食用油		7	100.0	57.1	0.0	14.3	28.6	41.6
砂糖		9	100.0	22.2	11.1	11.1	55.6	69.2
調味料		47	100.0	27.7	19.1	21.3	31.9	51.3
飲料		25	100.0	32.0	4.0	8.0	56.0	63.3
菓子		26	100.0	23.1	7.7	23.1	46.2	62.8
調理食品		39	100.0	28.2	15.4	33.3	23.1	50.9
酒類		46	100.0	4.3	6.5	4.3	84.8	90.3
その他		50	100.0	20.0	10.0	26.0	44.0	62.4
無回答		1	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	40.0

(2) 原料仕入数量の変化

ア 原料全体の仕入数量の変化

原料全体の仕入数量は、対前年比で、回答企業全体では、概ね前年並みとなっている。内訳についてみると、企業によりばらつきがみられる。「増加」が7%、「やや増加」が23%となっているのに対し、「減少」が8%、「やや減少」が23%となっている。

業種別にみると、増加企業数が減少企業数を上回っているのは、食用油製造業、菓子製造業、調理食品製造業、その他造業等となっている。

図7 原料仕入数量の変化(対前年比)

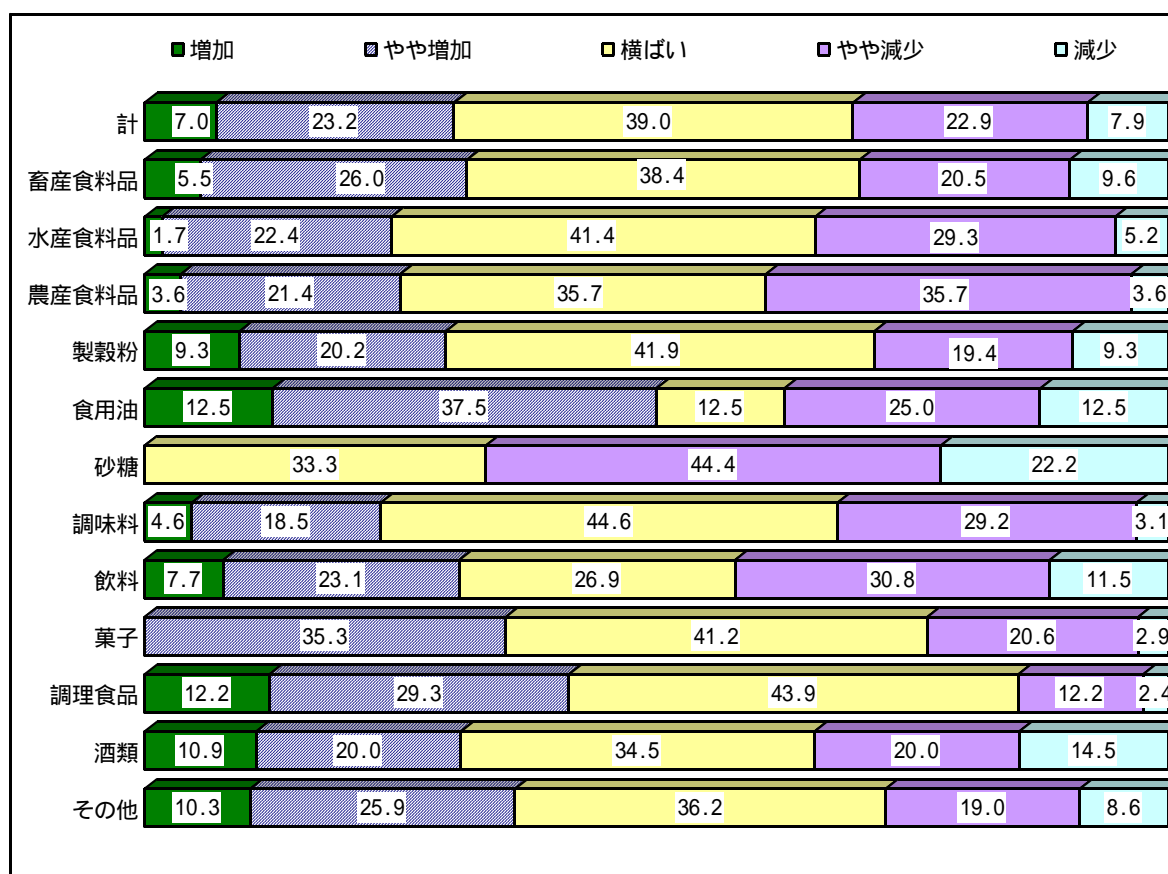


表7 原料仕入数量の変化(対前年比)

		回答数 (社)	計 (%)	増加 (%)	やや増加 (%)	横ばい (%)	やや減少 (%)	減少 (%)
計		585	100.0	7.0	23.2	39.0	22.9	7.9
資本金規模別	～1,000万円未満	20	100.0	0.0	10.0	40.0	25.0	25.0
	1,000万円以上～ 2,000万円未満	122	100.0	7.4	22.1	36.9	24.6	9.0
	2,000万円以上～ 5,000万円未満	193	100.0	6.7	24.9	39.9	21.8	6.7
	5,000万円以上～ 1億円未満	106	100.0	8.5	19.8	38.7	25.5	7.5
	1億円以上～ 3億円未満	70	100.0	2.9	25.7	38.6	24.3	8.6
	3億円以上～ 10億円未満	37	100.0	10.8	32.4	35.1	16.2	5.4
	10億円以上	35	100.0	11.4	20.0	48.6	17.1	2.9
	無回答	2	100.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
業種別	畜産食料品	73	100.0	5.5	26.0	38.4	20.5	9.6
	水産食料品	58	100.0	1.7	22.4	41.4	29.3	5.2
	農産食料品	28	100.0	3.6	21.4	35.7	35.7	3.6
	製穀粉	129	100.0	9.3	20.2	41.9	19.4	9.3
	食用油	8	100.0	12.5	37.5	12.5	25.0	12.5
	砂糖	9	100.0	0.0	0.0	33.3	44.4	22.2
	調味料	65	100.0	4.6	18.5	44.6	29.2	3.1
	飲料	26	100.0	7.7	23.1	26.9	30.8	11.5
	菓子	34	100.0	0.0	35.3	41.2	20.6	2.9
	調理食品	41	100.0	12.2	29.3	43.9	12.2	2.4
	酒類	55	100.0	10.9	20.0	34.5	20.0	14.5
その他	58	100.0	10.3	25.9	36.2	19.0	8.6	
無回答	1	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
国産仕入割合	～30%未満	140	100.0	7.9	21.4	36.4	25.7	8.6
	30%以上～50%未満	58	100.0	5.2	29.3	39.7	22.4	3.4
	50%以上～80%未満	79	100.0	5.1	26.6	41.8	17.7	8.9
	80%以上	205	100.0	7.8	22.9	36.1	25.4	7.8
	無回答	103	100.0	6.8	20.4	45.6	18.4	8.7

イ 国産原料の仕入数量の変化

国産原料の仕入数量は、対前年比で、回答企業全体では、概ね前年並みとなっている。内訳についてみると、企業によりばらつきがみられる。「増加」が6%、「やや増加」が22%となっているのに対し、「減少」が7%、「やや減少」が18%となっている。

業種別にみると、増加企業数が減少企業数を上回っているのは、製穀粉製造業、食用油製造業、調味料製造業、菓子製造業、調理食品製造業、その他造業等となっている。原料全体の仕入数量と同様な業種において、増加がみられる。

図8 国産原料仕入数量の変化(対前年比)

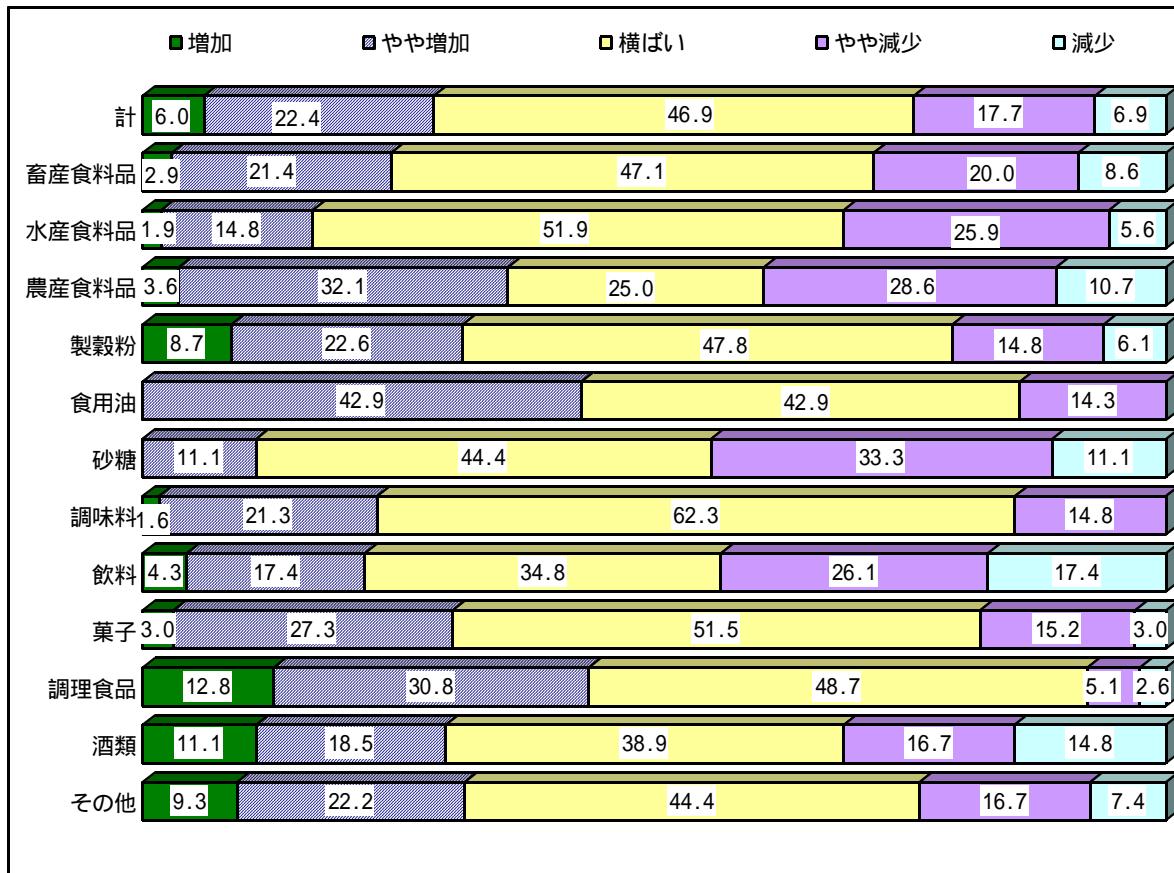


表8 国産原料仕入数量の変化(対前年比)

		回答数 (社)	計 (%)	増加 (%)	やや増加 (%)	横ばい (%)	やや減少 (%)	減少 (%)
計		548	100.0	6.0	22.4	46.9	17.7	6.9
資本金規模別	～1,000万円未満	19	100.0	10.5	5.3	47.4	21.1	15.8
	1,000万円以上～2,000万円未満	115	100.0	7.8	23.5	40.9	19.1	8.7
	2,000万円以上～5,000万円未満	180	100.0	5.0	23.9	46.7	16.7	7.8
	5,000万円以上～1億円未満	100	100.0	7.0	19.0	50.0	20.0	4.0
	1億円以上～3億円未満	63	100.0	4.8	27.0	42.9	17.5	7.9
	3億円以上～10億円未満	37	100.0	2.7	27.0	54.1	10.8	5.4
	10億円以上	32	100.0	6.3	18.8	56.3	18.8	0.0
	無回答	2	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
業種別	畜産食料品	70	100.0	2.9	21.4	47.1	20.0	8.6
	水産食料品	54	100.0	1.9	14.8	51.9	25.9	5.6
	農産食料品	28	100.0	3.6	32.1	25.0	28.6	10.7
	製穀粉	115	100.0	8.7	22.6	47.8	14.8	6.1
	食用油	7	100.0	0.0	42.9	42.9	14.3	0.0
	砂糖	9	100.0	0.0	11.1	44.4	33.3	11.1
	調味料	61	100.0	1.6	21.3	62.3	14.8	0.0
	飲料	23	100.0	4.3	17.4	34.8	26.1	17.4
	菓子	33	100.0	3.0	27.3	51.5	15.2	3.0
	調理食品	39	100.0	12.8	30.8	48.7	5.1	2.6
	酒類	54	100.0	11.1	18.5	38.9	16.7	14.8
	その他	54	100.0	9.3	22.2	44.4	16.7	7.4
無回答	1	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
国産仕入割合	～30%未満	116	100.0	5.2	25.0	49.1	13.8	6.9
	30%以上～50%未満	56	100.0	3.6	28.6	42.9	21.4	3.6
	50%以上～80%未満	79	100.0	5.1	21.5	50.6	19.0	3.8
	80%以上	204	100.0	8.3	21.6	42.2	19.1	8.8
	無回答	93	100.0	4.3	18.3	53.8	16.1	7.5

ウ 輸入原料の仕入数量の変化

輸入原料の仕入数量は、対前年比で、回答企業全体では、概ね前年並みとなっている。内訳についてみると、企業によりばらつきがみられる。「増加」が6%、「やや増加」が22%となっているのに対し、「減少」が6%、「やや減少」が23%となっている。

業種別にみると、増加企業数が減少企業数を上回っているのは、畜産食料品製造業、食用油製造業、飲料製造業、菓子製造業、調理食品製造業、その他造業等となっている。

図9 輸入原料仕入数量の変化(対前年比)

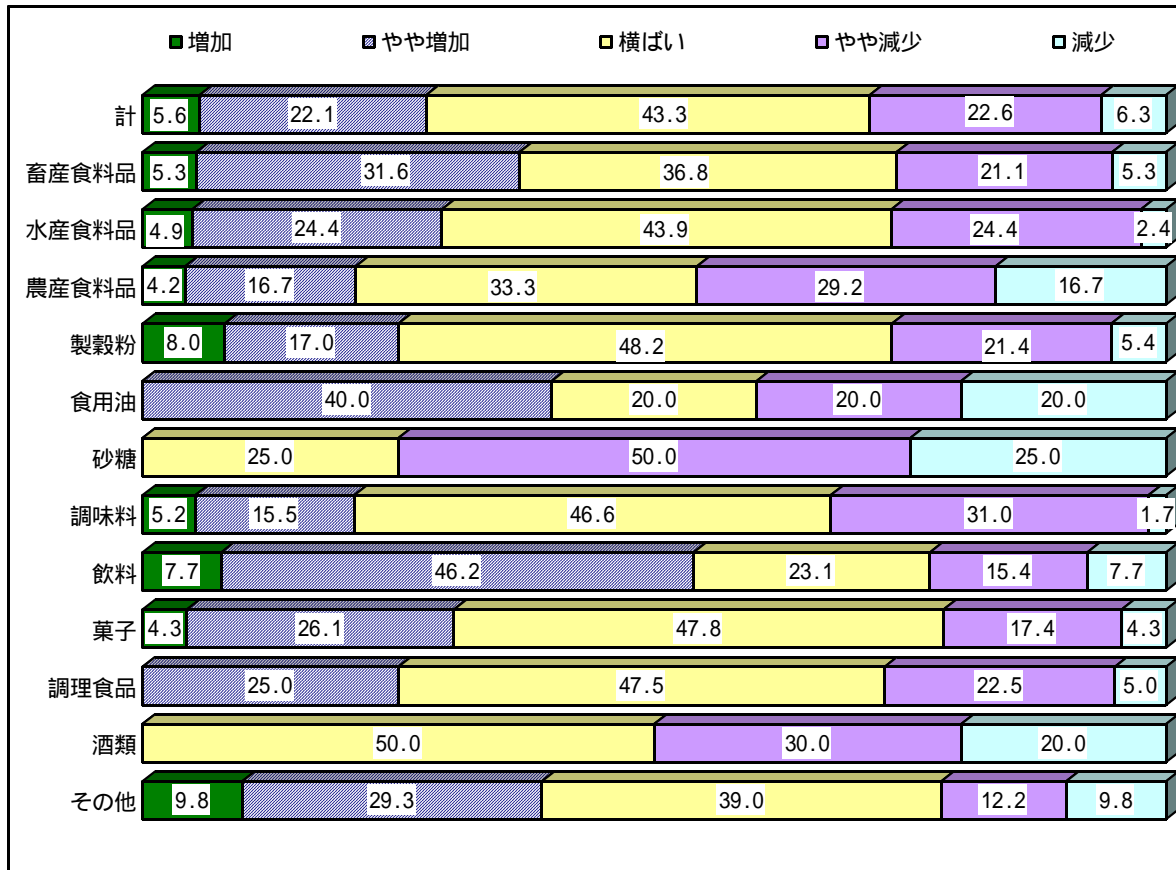


表9 輸入原料仕入数量の変化(対前年比)

		回答数	計	増加	やや増加	横ばい	やや減少	減少
		(社)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
計		411	100.0	5.6	22.1	43.3	22.6	6.3
資本金規模別	～1,000万円未満	15	100.0	6.7	6.7	46.7	13.3	26.7
	1,000万円以上～2,000万円未満	85	100.0	4.7	20.0	45.9	21.2	8.2
	2,000万円以上～5,000万円未満	129	100.0	6.2	20.9	45.7	22.5	4.7
	5,000万円以上～1億円未満	75	100.0	6.7	18.7	42.7	29.3	2.7
	1億円以上～3億円未満	47	100.0	0.0	21.3	46.8	23.4	8.5
	3億円以上～10億円未満	29	100.0	10.3	27.6	27.6	27.6	6.9
	10億円以上	29	100.0	6.9	41.4	37.9	10.3	3.4
	無回答	2	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	業種別	畜産食料品	38	100.0	5.3	31.6	36.8	21.1
水産食料品		41	100.0	4.9	24.4	43.9	24.4	2.4
農産食料品		24	100.0	4.2	16.7	33.3	29.2	16.7
製穀粉		112	100.0	8.0	17.0	48.2	21.4	5.4
食用油		5	100.0	0.0	40.0	20.0	20.0	20.0
砂糖		4	100.0	0.0	0.0	25.0	50.0	25.0
調味料		58	100.0	5.2	15.5	46.6	31.0	1.7
飲料		13	100.0	7.7	46.2	23.1	15.4	7.7
菓子		23	100.0	4.3	26.1	47.8	17.4	4.3
調理食品		40	100.0	0.0	25.0	47.5	22.5	5.0
酒類		10	100.0	0.0	0.0	50.0	30.0	20.0
その他		41	100.0	9.8	29.3	39.0	12.2	9.8
無回答		2	100.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
国産仕入割合	～30%未満	135	100.0	8.9	20.7	40.7	23.7	5.9
	30%以上～50%未満	57	100.0	3.5	28.1	42.1	19.3	7.0
	50%以上～80%未満	75	100.0	0.0	32.0	40.0	24.0	4.0
	80%以上	70	100.0	4.3	15.7	42.9	22.9	14.3
	無回答	74	100.0	8.1	16.2	52.7	21.6	1.4

(3) 原料仕入価格の変化

ア 国産原料の仕入価格の変化

国産原料の仕入価格は、対前年比で、回答企業全体では、前年並みからやや上昇が多い。内訳についてみると、企業によりばらつきがみられる。「上昇」が9%、「やや上昇」が35%となっているのに対し、「低下」が5%、「やや低下」が10%となっている。

業種別にみると、ほとんどの業種で上昇企業数が低下企業数を上回っており、特に水産食料品製造業、食用油製造業、調味料製造業において顕著となっている。

図10 国産原料仕入価格の変化(対前年比)

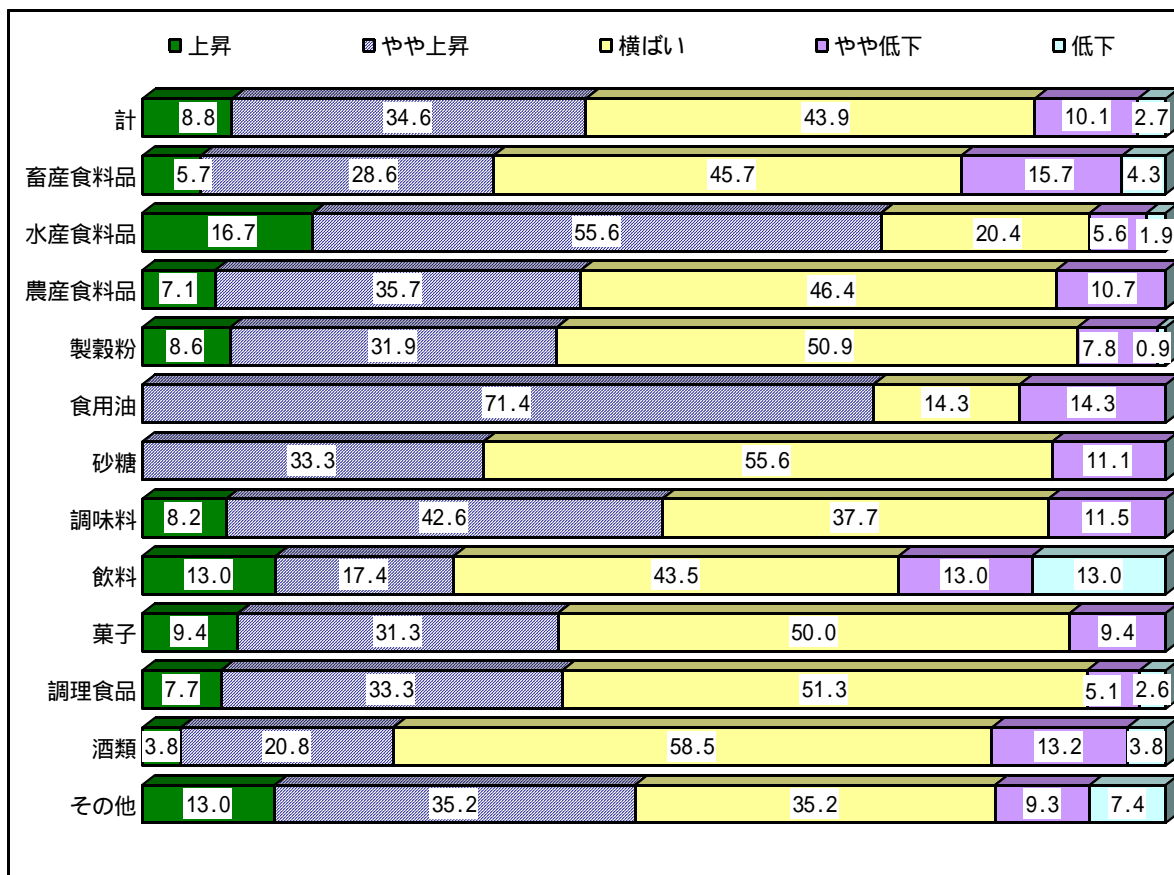


表10 国産原料仕入価格の変化(対前年比)

		回答数	計	上昇	やや上 昇	横ばい	やや低 下	低下
		(社)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
計		547	100.0	8.8	34.6	43.9	10.1	2.7
資 本 金 規 模 別	～1,000万円未満	19	100.0	15.8	21.1	42.1	15.8	5.3
	1,000万円以上～ 2,000万円未満	116	100.0	10.3	37.1	41.4	6.9	4.3
	2,000万円以上～ 5,000万円未満	178	100.0	10.1	32.6	46.1	10.1	1.1
	5,000万円以上～ 1億円未満	100	100.0	6.0	34.0	45.0	12.0	3.0
	1億円以上～ 3億円未満	63	100.0	6.3	41.3	34.9	12.7	4.8
	3億円以上～ 10億円未満	37	100.0	5.4	37.8	45.9	8.1	2.7
	10億円以上	32	100.0	9.4	28.1	53.1	9.4	0.0
	無回答	2	100.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	業 種 別	畜産食料品	70	100.0	5.7	28.6	45.7	15.7
水産食料品		54	100.0	16.7	55.6	20.4	5.6	1.9
農産食料品		28	100.0	7.1	35.7	46.4	10.7	0.0
製穀粉		116	100.0	8.6	31.9	50.9	7.8	0.9
食用油		7	100.0	0.0	71.4	14.3	14.3	0.0
砂糖		9	100.0	0.0	33.3	55.6	11.1	0.0
調味料		61	100.0	8.2	42.6	37.7	11.5	0.0
飲料		23	100.0	13.0	17.4	43.5	13.0	13.0
菓子		32	100.0	9.4	31.3	50.0	9.4	0.0
調理食品		39	100.0	7.7	33.3	51.3	5.1	2.6
酒類		53	100.0	3.8	20.8	58.5	13.2	3.8
その他		54	100.0	13.0	35.2	35.2	9.3	7.4
無回答	1	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
国 産 仕 入 割 合	～30%未満	116	100.0	7.8	40.5	44.8	6.0	0.9
	30%以上～50%未満	56	100.0	10.7	42.9	35.7	7.1	3.6
	50%以上～80%未満	79	100.0	12.7	34.2	44.3	7.6	1.3
	80%以上	203	100.0	7.9	28.1	45.8	14.3	3.9
	無回答	93	100.0	7.5	36.6	43.0	9.7	3.2

イ 輸入原料の仕入価格の変化

輸入原料の仕入価格は、対前年比で、回答企業全体では、国産原料と同様前年並みからやや上昇が多い。内訳についてみると、企業によりばらつきがみられる。「上昇」が14%、「やや上昇」が40%となっているのに対し、「低下」が2%、「やや低下」が6%となっている。

業種別にみると、ほとんどの業種で上昇企業数が低下企業数を上回っており、特に畜産食料品製造業、水産食料品製造業、農産食料品製造業、食用油製造業、砂糖製造業、飲料製造業、菓子製造業、調理食品製造業等において顕著となっている。

図11 輸入原料仕入価格の変化(対前年比)

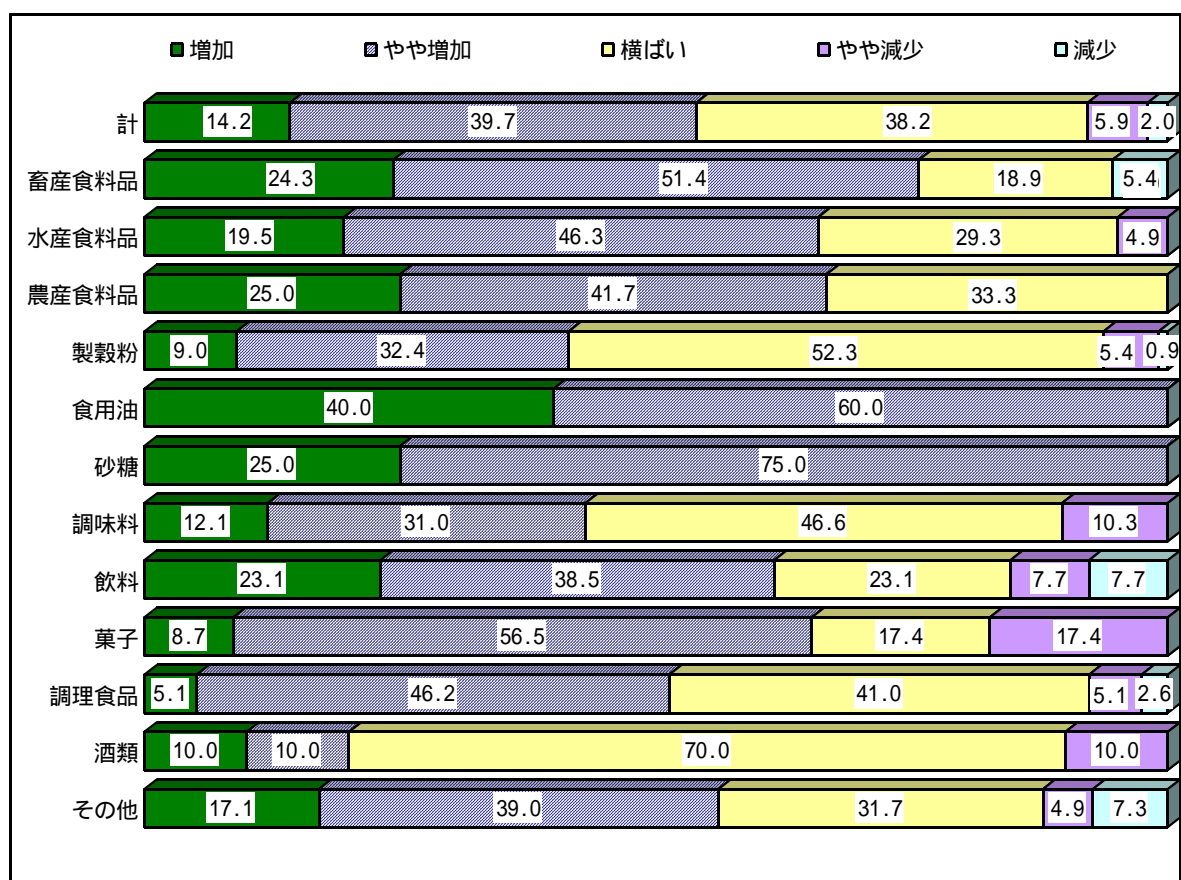


表11 輸入原料仕入価格の変化(対前年比)

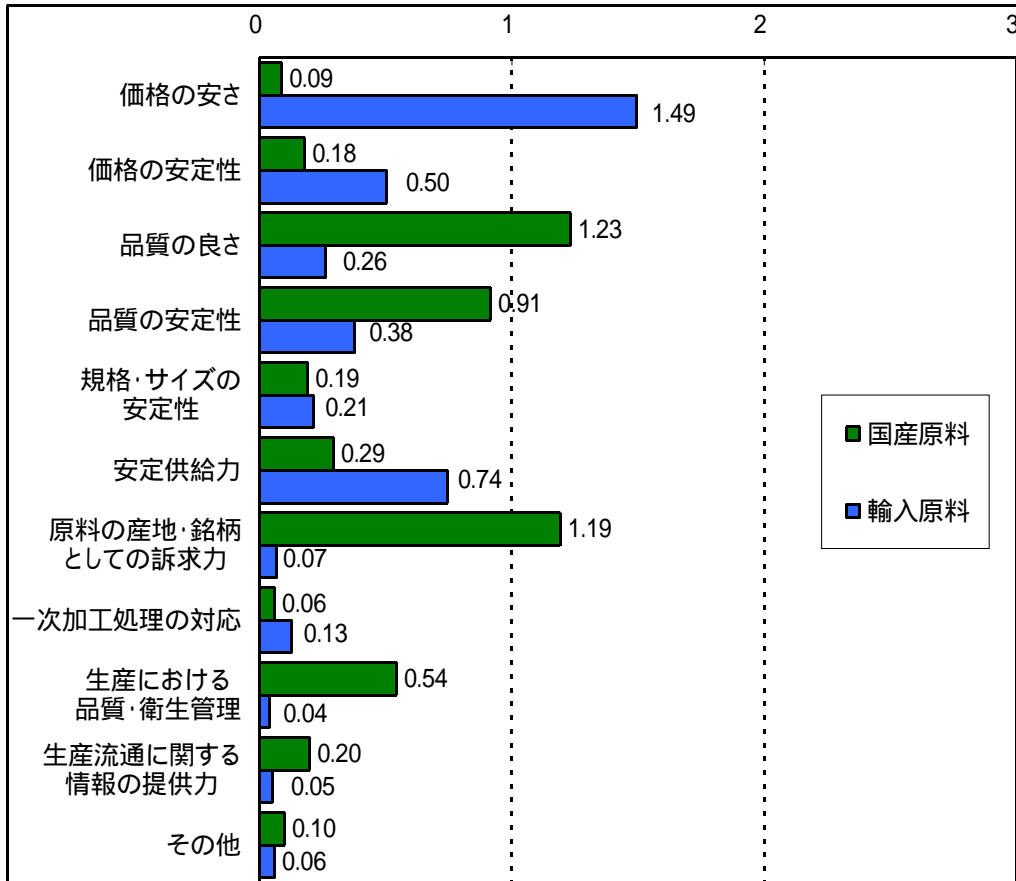
		回答数	計	上昇	やや上 昇	横ばい	やや低 下	低下
		(社)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
計		408	100.0	14.2	39.7	38.2	5.9	2.0
資 本 金 規 模 別	～1,000万円未満	15	100.0	13.3	13.3	60.0	0.0	13.3
	1,000万円以上～ 2,000万円未満	85	100.0	15.3	45.9	31.8	3.5	3.5
	2,000万円以上～ 5,000万円未満	128	100.0	17.2	34.4	43.0	4.7	0.8
	5,000万円以上～ 1億円未満	75	100.0	12.0	38.7	38.7	10.7	0.0
	1億円以上～ 3億円未満	47	100.0	12.8	34.0	42.6	6.4	4.3
	3億円以上～ 10億円未満	28	100.0	7.1	64.3	25.0	3.6	0.0
	10億円以上	28	100.0	14.3	46.4	28.6	10.7	0.0
	無回答	2	100.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	業 種 別	畜産食料品	37	100.0	24.3	51.4	18.9	0.0
水産食料品		41	100.0	19.5	46.3	29.3	4.9	0.0
農産食料品		24	100.0	25.0	41.7	33.3	0.0	0.0
製穀粉		111	100.0	9.0	32.4	52.3	5.4	0.9
食用油		5	100.0	40.0	60.0	0.0	0.0	0.0
砂糖		4	100.0	25.0	75.0	0.0	0.0	0.0
調味料		58	100.0	12.1	31.0	46.6	10.3	0.0
飲料		13	100.0	23.1	38.5	23.1	7.7	7.7
菓子		23	100.0	8.7	56.5	17.4	17.4	0.0
調理食品		39	100.0	5.1	46.2	41.0	5.1	2.6
酒類		10	100.0	10.0	10.0	70.0	10.0	0.0
その他		41	100.0	17.1	39.0	31.7	4.9	7.3
無回答	2	100.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	
国 産 仕 入 割 合	～30%未満	134	100.0	21.6	36.6	33.6	7.5	0.7
	30%以上～50%未満	57	100.0	10.5	43.9	33.3	8.8	3.5
	50%以上～80%未満	75	100.0	12.0	44.0	37.3	4.0	2.7
	80%以上	69	100.0	8.7	36.2	44.9	7.2	2.9
	無回答	73	100.0	11.0	41.1	45.2	1.4	1.4

(4) 国産及び輸入原料の比較

国産原料の長所は、「品質の良さ」、「原料の産地・銘柄としての訴求力」、「品質の安定性」、「生産における品質・衛生管理」であり、一方、輸入原料の長所は、「価格の安さ」、「安定供給力」、「価格の安定性」であり、きわめて対照的となっている。

このようにみると、輸入原料の長所である、「価格の安さ」、「安定供給力」、「価格の安定性」は、国産原料の課題である。

図12国産原料と輸入原料の比較



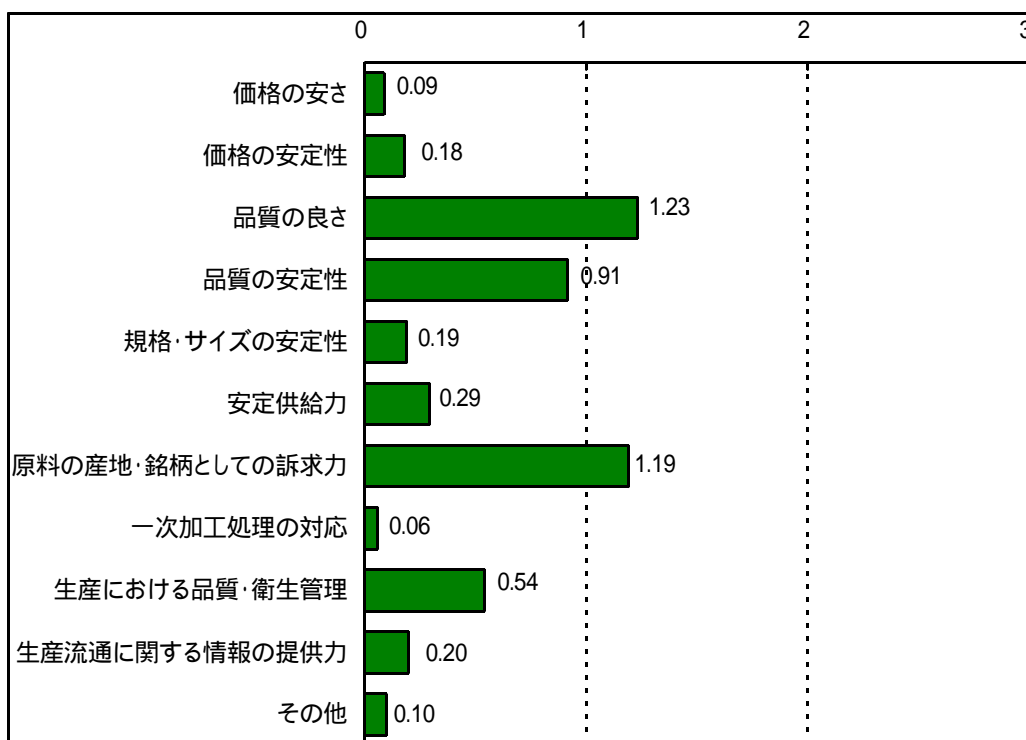
注：上位3位までの回答について、第1位を3.0、第2位を2.0、第3位を1.0の重みづけ集計。(最小0～最大3)

ア 国産原料の長所

国産原料の長所は、「品質の良さ」、「原料の産地・銘柄としての訴求力」、「品質の安定性」が上位3つであり、以下、「生産における品質・衛生管理」、「安定供給力」、「生産流通に関する情報の供給力」等となっている。

しかし、品質が良く、訴求力として効果があるかどうかについては、業種によりばらつきが大きくみられる。品質が良く、訴求力として効果が高いのは、畜産食料品製造業、水産食料品製造業、製穀粉製造業、調味料製造業、菓子製造業、調理食品製造業、酒類製造業等となっている。

図13 国産原料の長所



注: 上位3位までの回答について、第1位を3.0、第2位を2.0、第3位を1.0の重みづけ集計。(最小0～最大3)

表12 国産原料の長所

		回答数 (社)	価格の 安さ	価格の 安定性	品質の 良さ	品質の 安定性	規格・ サイズ の安定 性	安定供 給力	原料の 産地・ 銘柄と しての 訴求力	一次加 工処理 の対応	生産に おける 品質・ 衛生管 理	生産流 通に関 する情 報の提 供力	その他
計		609	0.09	0.18	1.23	0.91	0.19	0.29	1.19	0.06	0.54	0.20	0.10
資本金規模別	～1,000万円未満	20	0.20	0.05	1.35	0.85	0.25	0.10	1.40	0.00	0.45	0.10	0.40
	1,000万円以上～ 2,000万円未満	128	0.09	0.20	1.32	0.84	0.20	0.29	1.20	0.07	0.55	0.21	0.09
	2,000万円以上～ 5,000万円未満	205	0.11	0.17	1.28	0.95	0.19	0.29	1.04	0.04	0.54	0.18	0.09
	5,000万円以上～ 1億円未満	109	0.09	0.23	1.34	0.94	0.22	0.28	1.28	0.03	0.51	0.17	0.08
	1億円以上～ 3億円未満	71	0.04	0.13	1.06	1.06	0.11	0.35	1.13	0.10	0.56	0.25	0.06
	3億円以上～ 10億円未満	38	0.05	0.16	1.08	0.89	0.21	0.37	1.61	0.16	0.55	0.24	0.11
	10億円以上	35	0.00	0.14	0.80	0.69	0.20	0.26	1.31	0.09	0.66	0.26	0.17
	無回答	3	0.00	0.67	0.67	1.00	0.00	0.33	1.00	0.00	0.00	0.33	0.00
業種別	畜産食料品	76	0.16	0.17	0.93	0.66	0.14	0.45	1.17	0.04	0.46	0.21	0.12
	水産食料品	59	0.12	0.00	1.20	1.17	0.32	0.22	1.20	0.10	0.34	0.29	0.10
	農産食料品	28	0.11	0.21	0.93	0.86	0.11	0.07	1.68	0.07	0.82	0.36	0.00
	製穀粉	135	0.11	0.15	1.16	0.80	0.16	0.19	1.35	0.04	0.61	0.21	0.09
	食用油	8	0.00	0.00	1.50	0.75	0.25	0.63	0.25	0.00	0.63	0.00	0.00
	砂糖	9	0.00	0.56	0.89	0.33	0.00	0.00	0.44	0.00	0.33	0.11	0.67
	調味料	66	0.00	0.17	1.30	0.89	0.23	0.24	1.21	0.18	0.71	0.30	0.09
	飲料	32	0.06	0.31	0.84	1.00	0.00	0.34	0.72	0.13	0.44	0.09	0.22
	菓子	34	0.12	0.32	1.24	1.18	0.38	0.38	1.26	0.03	0.65	0.26	0.00
	調理食品	41	0.05	0.22	1.32	0.90	0.27	0.20	1.37	0.05	0.78	0.12	0.05
	酒類	56	0.00	0.27	1.84	1.21	0.07	0.46	1.23	0.00	0.25	0.05	0.05
	その他	62	0.13	0.15	1.50	0.98	0.27	0.39	0.92	0.02	0.48	0.13	0.15
無回答	3	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.67	0.00	1.00	0.00	0.00	
国産仕入割合	～30%未満	143	0.13	0.06	0.99	0.52	0.21	0.17	1.31	0.05	0.52	0.31	0.08
	30%以上～50%未満	58	0.16	0.21	1.24	0.78	0.24	0.21	1.41	0.10	0.62	0.36	0.17
	50%以上～80%未満	79	0.01	0.20	1.59	0.97	0.32	0.30	1.35	0.03	0.70	0.18	0.11
	80%以上	206	0.10	0.24	1.29	1.21	0.13	0.37	1.03	0.06	0.57	0.15	0.08
	無回答	123	0.03	0.18	1.18	0.91	0.17	0.33	1.11	0.07	0.37	0.10	0.11

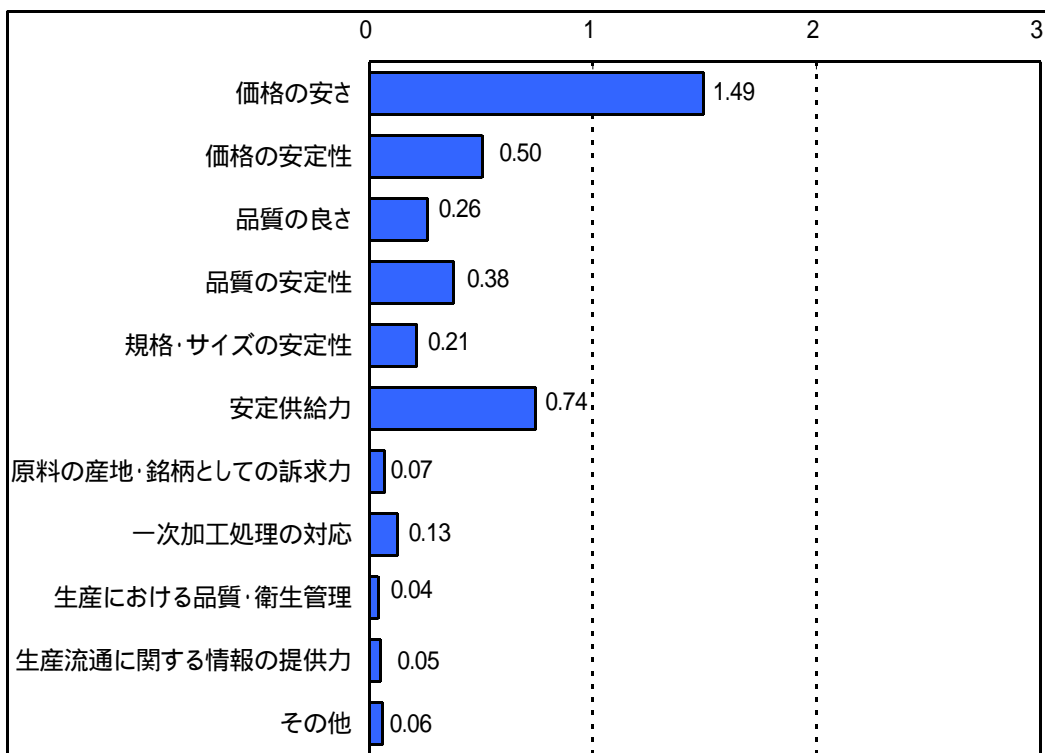
注: 上位3位までの回答について、第1位を3.0、第2位を2.0、第3位を1.0の重みづけ集計。(最小0～最大3)

イ 輸入原料の長所

輸入原料の長所は、「価格の安さ」、「安定供給力」、「価格の安定性」が上位3つであり、以下、「品質の安定性」、「品質の良さ」、「規格・サイズの安定性」、「一次加工処理の対応」等となっており、国産原料とは対照的である。しかし、これら上位3つの要素はきわめて重要であり、また、「品質の安定性」、「品質の良さ」、「規格・サイズの安定性」も少なくなく、かなり改善されつつあることがうかがえる。

しかし、価格が安く、安定供給力があるかどうかについては、業種によりばらつきが大きくみられる。価格が安く、安定供給力があるのは、水産食料品製造業、農産食料品製造業、製穀粉製造業、調味料製造業、飲料製造業、菓子製造業、調理食品製造業等となっている。

図14 輸入原料の長所



注：上位3位までの回答について、第1位を3.0、第2位を2.0、第3位を1.0の重みづけ集計。(最小0～最大3)

表13 輸入原料の長所

		回答数 (社)	価格の 安さ	価格の 安定性	品質の 良さ	品質の 安定性	規格・ サイズ の安定 性	安定供 給力	原料の 産地・ 銘柄と しての 訴求力	一次加 工処理 の対応	生産に おける 品質・ 衛生管 理	生産流 通に関 する情 報の提 供力	その他
計		609	1.49	0.50	0.26	0.38	0.21	0.74	0.07	0.13	0.04	0.05	0.06
資本金規模別	～1,000万円未満	20	1.65	0.50	0.20	0.30	0.15	1.10	0.05	0.10	0.05	0.00	0.30
	1,000万円以上～ 2,000万円未満	128	1.40	0.53	0.24	0.28	0.36	0.68	0.14	0.08	0.01	0.02	0.06
	2,000万円以上～ 5,000万円未満	205	1.48	0.46	0.27	0.39	0.14	0.67	0.07	0.13	0.05	0.05	0.04
	5,000万円以上～ 1億円未満	109	1.49	0.70	0.27	0.42	0.18	0.75	0.04	0.12	0.05	0.07	0.05
	1億円以上～ 3億円未満	71	1.59	0.44	0.14	0.31	0.13	0.66	0.01	0.13	0.04	0.08	0.10
	3億円以上～ 10億円未満	38	1.68	0.37	0.24	0.39	0.39	1.08	0.05	0.11	0.05	0.03	0.03
	10億円以上	35	1.51	0.31	0.60	0.63	0.26	0.94	0.03	0.31	0.03	0.09	0.00
	無回答	3	1.00	0.67	0.00	1.00	0.00	1.00	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00
業種別	畜産食料品	76	1.18	0.32	0.14	0.34	0.36	0.32	0.01	0.11	0.07	0.08	0.00
	水産食料品	59	1.29	0.64	0.47	0.41	0.24	0.83	0.10	0.20	0.15	0.03	0.05
	農産食料品	28	2.21	0.46	0.25	0.36	0.57	1.00	0.07	0.25	0.04	0.04	0.00
	製穀粉	135	1.46	0.71	0.64	0.59	0.16	0.90	0.11	0.04	0.01	0.06	0.04
	食用油	8	0.75	0.88	0.00	0.25	0.00	1.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	砂糖	9	1.33	0.00	0.22	0.56	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	調味料	66	1.98	0.58	0.15	0.48	0.30	1.15	0.05	0.09	0.03	0.08	0.05
	飲料	32	1.06	0.28	0.03	0.06	0.00	0.63	0.03	0.16	0.00	0.06	0.41
	菓子	34	1.76	0.56	0.24	0.56	0.15	0.85	0.26	0.00	0.06	0.09	0.00
	調理食品	41	2.41	0.66	0.07	0.20	0.44	1.20	0.00	0.39	0.02	0.00	0.10
	酒類	56	0.54	0.14	0.04	0.11	0.04	0.21	0.00	0.05	0.02	0.00	0.04
その他	62	1.73	0.45	0.00	0.26	0.11	0.52	0.08	0.23	0.02	0.05	0.10	
無回答	3	2.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
国産仕入割合	～30%未満	143	1.67	0.70	0.45	0.69	0.27	1.08	0.16	0.16	0.06	0.04	0.04
	30%以上～50%未満	58	1.78	0.83	0.34	0.48	0.41	1.28	0.00	0.24	0.05	0.07	0.09
	50%以上～80%未満	79	2.19	0.68	0.20	0.35	0.34	1.15	0.10	0.19	0.04	0.04	0.05
	80%以上	206	1.13	0.27	0.13	0.17	0.12	0.25	0.02	0.07	0.03	0.04	0.04
	無回答	123	1.33	0.41	0.25	0.34	0.14	0.67	0.06	0.08	0.02	0.07	0.10

注: 上位3位までの回答について、第1位を3.0、第2位を2.0、第3位を1.0の重みづけ集計。(最小0～最大3)

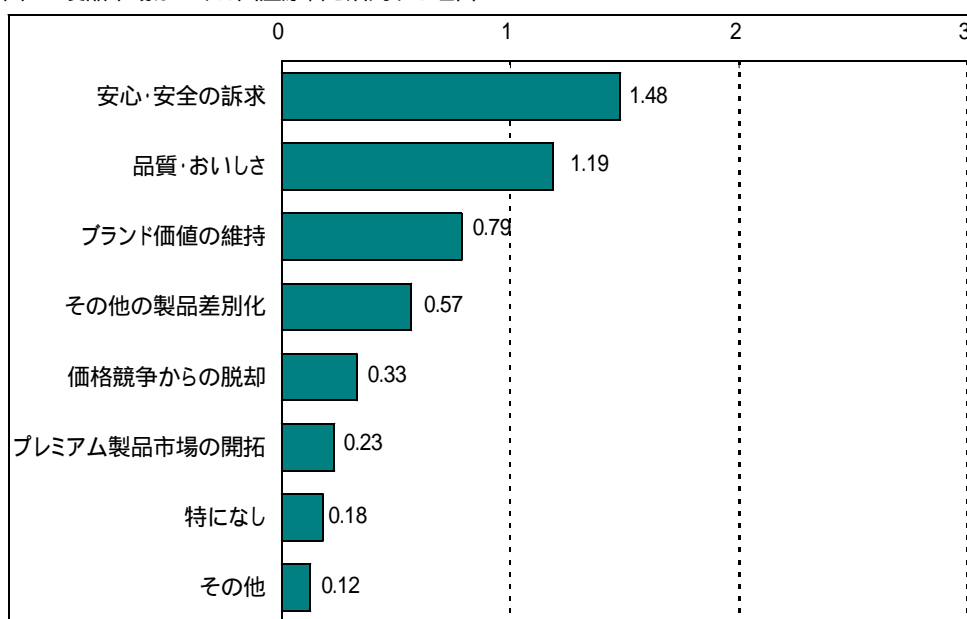
(5) 国産原料の問題点・課題

ア 製品市場からみた国産原料を活用する理由

製品市場からみた国産原料活用のメリットについては、「安心安全の訴求」、「品質・おいしさ」、「ブランド価値の維持」が上位3つとなっている。以下、「その他の製品差別化」、「価格競争からの脱却」、「プレミアム製品市場の開拓」となっている。

以上を踏まえると、国産原料は、「価格」、「安定供給力」、「価格の安定性」という課題を抱えているものの、安心安全やおいしさなどきわめて重要な消費者の支持要因に支えられていることがうかがえる。

図15 製品市場からみた国産原料を活用する理由



注: 上位3位までの回答について、第1位を3.0、第2位を2.0、第3位を1.0の重みづけ集計。(最小0～最大3)

表14 製品市場からみた国産原料を活用する理由

		回答数 (社)	価格競争からの脱却	安心・安全の訴求	品質・おいしさ	ブランド価値の維持	プレミアム製品市場の開拓	その他の製品差別化	特になし	その他
計		609	0.33	1.48	1.19	0.79	0.23	0.57	0.18	0.12
資本規模別	～1,000万円未満	20	0.65	1.35	1.40	0.80	0.10	0.65	0.00	0.15
	1,000万円以上～2,000万円未満	128	0.40	1.47	1.12	0.78	0.16	0.52	0.23	0.08
	2,000万円以上～5,000万円未満	205	0.29	1.40	1.33	0.78	0.19	0.52	0.20	0.12
	5,000万円以上～1億円未満	109	0.48	1.65	1.26	0.77	0.21	0.66	0.11	0.09
	1億円以上～3億円未満	71	0.13	1.35	1.15	0.89	0.18	0.48	0.15	0.21
	3億円以上～10億円未満	38	0.26	1.95	0.97	0.84	0.26	0.76	0.26	0.11
	10億円以上	35	0.17	1.31	0.66	0.66	0.94	0.71	0.11	0.29
	無回答	3	0.00	1.00	0.33	0.67	0.00	0.00	1.00	0.00
業種別	畜産食料品	76	0.36	1.46	0.93	0.62	0.16	0.51	0.18	0.21
	水産食料品	59	0.32	1.32	1.27	0.92	0.24	0.54	0.25	0.15
	農産食料品	28	0.79	2.00	1.18	0.86	0.07	0.46	0.11	0.00
	製穀粉	135	0.39	1.53	1.19	0.78	0.23	0.67	0.17	0.04
	食用油	8	0.13	1.38	1.63	0.13	0.50	0.13	0.38	0.38
	砂糖	9	0.00	1.56	0.33	0.22	0.00	0.22	0.33	0.67
	調味料	66	0.26	1.58	0.95	0.68	0.26	0.52	0.45	0.12
	飲料	32	0.13	1.50	1.13	0.75	0.28	0.47	0.09	0.13
	菓子	34	0.56	1.29	1.41	1.15	0.29	0.68	0.06	0.00
	調理食品	41	0.32	1.63	1.32	0.63	0.27	0.88	0.00	0.15
	酒類	56	0.16	1.39	1.59	1.14	0.14	0.46	0.05	0.14
	その他	62	0.21	1.32	1.24	0.77	0.32	0.53	0.18	0.18
無回答	3	1.00	1.00	0.00	0.00	0.67	0.00	0.00	0.00	
国産仕入割合	～30%未満	143	0.44	1.03	0.76	0.55	0.43	0.93	0.28	0.08
	30%以上～50%未満	58	0.50	1.57	1.03	0.90	0.28	0.72	0.22	0.03
	50%以上～80%未満	79	0.30	1.61	1.53	0.94	0.19	0.73	0.11	0.11
	80%以上	206	0.19	1.78	1.44	0.86	0.10	0.32	0.14	0.21
	無回答	123	0.36	1.39	1.11	0.79	0.21	0.37	0.15	0.08

注:上位3位までの回答について、第1位を3.0、第2位を2.0、第3位を1.0の重みづけ集計。(最小0～最大3)

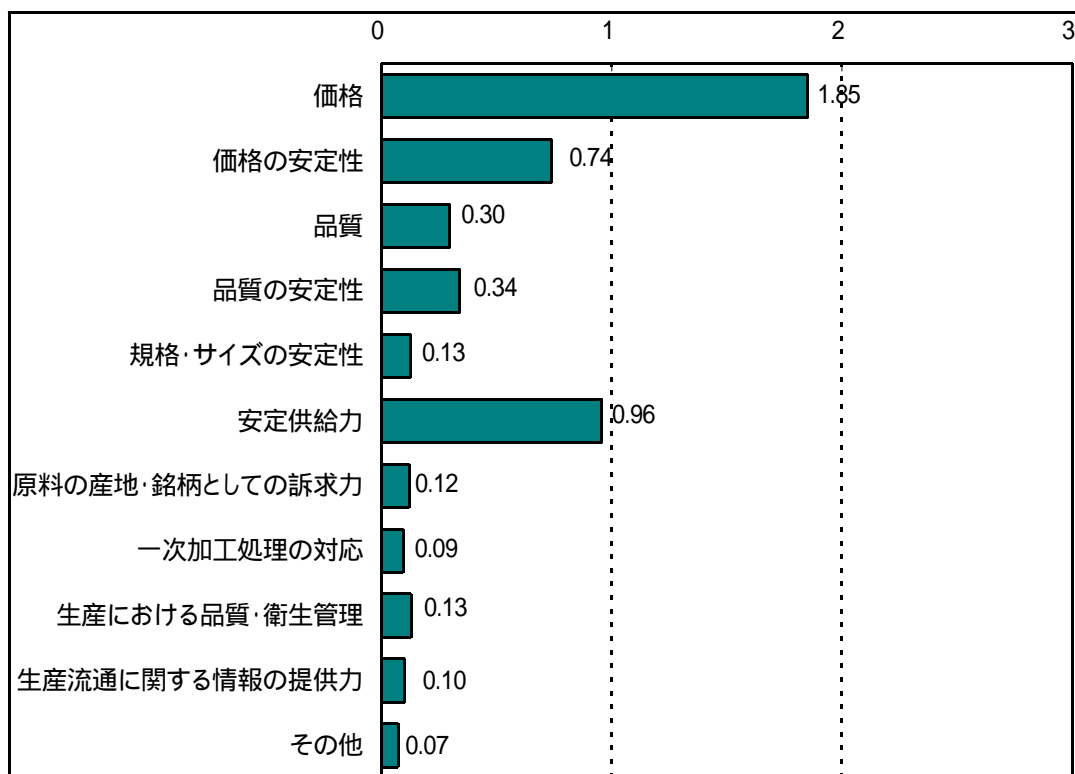
イ 国産原料の仕入上の問題点・課題

国産原料の仕入上の課題は、「価格」、「安定供給力」、「価格の安定性」が上位3つとなっている。

業種別にみても、概ね、これら3つが問題点・課題としてあげられている。

国産原料といっても品質特徴は多様であり、品質規格が良いものやこだわりについては、おいしさ、安心安全の訴求、製品差別化、プレミアム製品市場の開拓などが期待されるが、品質規格が一般的なものについては、価格、安定供給力などが課題といえる。

図16 国産原料仕入上の問題点・課題



注：上位3位までの回答について、第1位を3.0、第2位を2.0、第3位を1.0の重みづけ集計。(最小0～最大3)

表15 国産原料仕入上の問題点・課題

		回答数 (社)	価格	価格の 安定性	品質	品質の 安定性	規格・ サイズ の安定 性	安定供 給力	原料の 産地・ 銘柄と しての 訴求力	一次加 工処理 の対応	生産に おける 品質・ 衛生管 理	生産流 通に関 する情 報の提 供力	その他
計		609	1.85	0.74	0.30	0.34	0.13	0.96	0.12	0.09	0.13	0.10	0.07
資本金規模別	～1,000万円未満	20	2.10	1.15	0.25	0.40	0.00	1.25	0.15	0.10	0.10	0.20	0.00
	1,000万円以上～ 2,000万円未満	128	1.96	0.62	0.32	0.34	0.09	0.90	0.13	0.08	0.10	0.11	0.06
	2,000万円以上～ 5,000万円未満	205	1.75	0.85	0.28	0.34	0.10	0.92	0.12	0.07	0.12	0.08	0.08
	5,000万円以上～ 1億円未満	109	1.87	0.65	0.28	0.38	0.25	1.06	0.13	0.09	0.21	0.10	0.07
	1億円以上～ 3億円未満	71	1.96	0.59	0.30	0.18	0.14	0.82	0.07	0.14	0.17	0.15	0.04
	3億円以上～ 10億円未満	38	1.76	0.97	0.18	0.37	0.08	1.13	0.26	0.05	0.08	0.00	0.16
	10億円以上	35	1.80	0.54	0.54	0.51	0.17	1.03	0.03	0.20	0.03	0.09	0.06
	無回答	3	1.00	1.33	0.00	0.00	0.00	0.67	0.00	0.33	0.00	0.67	0.00
業種別	畜産食料品	76	1.74	0.66	0.25	0.26	0.21	0.78	0.12	0.05	0.05	0.17	0.08
	水産食料品	59	1.69	1.10	0.22	0.24	0.15	1.24	0.05	0.05	0.29	0.03	0.05
	農産食料品	28	1.79	0.82	0.36	0.18	0.25	1.54	0.18	0.18	0.14	0.04	0.00
	製穀粉	135	1.76	0.60	0.47	0.59	0.07	1.04	0.10	0.05	0.07	0.13	0.07
	食用油	8	1.38	0.75	0.38	0.38	0.00	1.88	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00
	砂糖	9	1.56	0.22	0.22	0.44	0.00	0.89	0.00	0.00	0.67	0.00	0.00
	調味料	66	2.26	0.79	0.11	0.24	0.12	1.05	0.05	0.11	0.17	0.14	0.08
	飲料	32	1.31	0.19	0.44	0.25	0.09	0.75	0.22	0.16	0.16	0.03	0.16
	菓子	34	1.79	1.03	0.24	0.41	0.03	0.56	0.29	0.00	0.15	0.09	0.09
	調理食品	41	2.29	0.90	0.10	0.17	0.29	1.22	0.12	0.32	0.15	0.02	0.05
	酒類	56	2.00	0.70	0.41	0.36	0.05	0.50	0.16	0.11	0.09	0.16	0.11
	その他	62	2.02	0.85	0.24	0.23	0.13	0.87	0.10	0.11	0.10	0.10	0.06
無回答	3	0.00	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
国産仕入割合	～30%未満	143	1.76	0.55	0.39	0.50	0.16	1.05	0.12	0.08	0.15	0.03	0.09
	30%以上～50%未満	58	1.91	0.91	0.26	0.53	0.17	1.40	0.05	0.14	0.05	0.09	0.00
	50%以上～80%未満	79	2.29	0.78	0.28	0.27	0.15	1.10	0.15	0.16	0.09	0.14	0.01
	80%以上	206	1.71	0.84	0.26	0.29	0.12	0.85	0.14	0.11	0.19	0.14	0.11
	無回答	123	1.88	0.67	0.28	0.20	0.07	0.73	0.10	0.02	0.06	0.11	0.06

注: 上位3位までの回答について、第1位を3.0、第2位を2.0、第3位を1.0の重みづけ集計。(最小0～最大3)

国産原料仕入上の問題点・課題

肉製品	<ul style="list-style-type: none"> ・コスト高、品質不安定 ・国産原料と輸入原料では、相場によって多少価格が異なりますが、国産原料と輸入の割合はあまり変えない。 ・鶏インフルエンザの影響が今だ完全に復帰せず、廃鶏の集荷にムダがある。 ・地産地消におけるアイテムに使用 ・廃鶏のため、人材が不安定である。 ・国内生産頭数が減少している ・食品加工品の原産地表示の義務化、及び消費者からの要望により、安心、安全の意味を含め国産原料使用増の傾向にある。 ・仕入価格が安定でないため、販売価格の一定が難しい。 ・豚専門のと畜及び同食肉加工業であり、国産原料以外の使用は不可能だ ・米国産牛輸入停止以来、牛もつが不足している。豚処理頭数の減少から、豚もつの原料価格
-----	--

	<p>が急騰している。物を集めるだけでも大変である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流通数量の不安定。相場変動差が激しい。 ・地産地消への消費ニーズの変化、ご当地ブランド品の増加などに対する対応を今後強化していきたい。
乳製品	<ul style="list-style-type: none"> ・原料用生乳は適時、適量の購入が困難である ・牛乳を主体とする農協系乳業メーカーのため、主原料の仕入には制約がある ・原乳は国内の需給バランスにより仕入価格が左右され、中小メーカーは購入に関しては非常に難しい側面を持っている ・生乳に関しては、現状輸入品を使う選択肢は考えられない ・県内の酪農家の出資により設立された会社であるため、県産乳の消費拡大に努めている ・需要と供給の時期が必ずしも一致していない。 ・地産地消の精神を基に、地元で採れた農産物を地元の方々に飲んで、食べて頂く。目の届く原料を使用することで、安心安全の信頼関係が生まれる。外国からの生乳、乳製品では、それぞれの国の基準で安全を見ているので、日本で使用する場合、安心できる原料にはならない。 ・ナチュラル原料チーズには、29.8%の関税が課せられており、プロセス原料に使用する場合、関税割当制度が適用されます。しかし、根本的には国産乳価を海外並みに下げなければならないと考えている。
その他の畜産食料品	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロイラー産業については相場の変動で変わってくるため、今期前半の相場安の影響が大きく左右している。 ・加工原料として国産原料を使用するには価格が合わない。
水産加工品	<ul style="list-style-type: none"> ・昆布原料、輸入IQ枠(割当て)のため ・需給バランスの不安定と生産量の不安定により専業のみによる維持が難しい ・海外原料が、海外での需要の高まりによって、今までのように入ってこなくなり、国産原料が見直されるようになった ・品質第一と考えているので、八戸近海産の優良なイカだけを使用 ・供給価格が安定せず、加工原料として新商品の開発がしにくい ・原料であるグチ、近海のエソなどはほとんど取れなくなって来ている。 ・品質、価格の安定性 ・国産は品質の良さ、消費者の安心感がある ・天然物につき、年により変動がある ・200海里により漁獲量の減少している ・輸送コストが高い ・製品の付加価値となる ・外国産との差別化が難しい ・絶対量が少なく、稀少性が高いため、単価自体が高い。おのずと使用する商品は高額で付加価値の高いものに限られてくる。 ・生産地が限定されている。生産者が高齢化し、減少したことで、価格が不安定になった。 ・海外産の節を輸入し、国内でカビ付けすれば、カビ付け後の節は、国内産として扱われる。従って純粋に生からの国内で作られた節の競争力が弱まる状況がある。 ・国産原料の産地ブランド化が進んでいるが、喜ばしいことだ。 ・中国産原料が水質汚染などに起因する問題から輸入ストップし、国産へ切り替えるもコストアップ、収支圧迫している ・鯖資源は昨年度よりやや回復傾向にあります。その他イカ、ホタテなどは仕入価格高騰にあい資源の回復を待つ状況にある。
海藻加工品	<ul style="list-style-type: none"> ・当社は海苔加工の一工程を行っており海苔の製造といっても工賃収入と同様です。従って原料の農林水産物の仕入等は発生しません ・天然のため生産が安定せず、相場が不安定 ・海苔原料も昆布も輸入制約のあるIQ割当 ・後継者（漁業生産者）がほとんどなく、10年後はどうなるのか心配だ。 ・北海道漁連と北海道昆布事業協同組合共販体制の腐敗化？
冷凍水産物	<ul style="list-style-type: none"> ・価格は安定しているが、高止まりしている。 ・資源量の低下

缶詰（野菜・果実）	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培農家の高齢化、廃業の増加に伴い、国産原料減少傾向にある。抜本的な農政改革を希望 ・ふきは国内でも限られた場所でなければ栽培できません。しかし安価な中国産の影響で、栽培農家も減少、主力生産地のダメージは大きい。今後どうなるか心配だ。 ・限られた数量だけに、不足気味だと取り合いになってしまい、価格高騰になってしまう。 ・加工用の国産原料が減少している。理由として、付加価値性のある生食用の品種へ生産がシフトしている。 ・生産農家の減少に伴い、加工原料が減少してきている。 ・干ばつが続くと野菜の値上がりが起きる。
野菜漬物	<ul style="list-style-type: none"> ・輸入物がない、商品特性から ・京漬物として販売してるので国産以外のものを原産国表示の義務化により使用できない。 ・国産原料は鮮度、生産管理が良い。 ・生産者の高齢化、後継者不足、大根、切干大根、重量野菜栽培に対して敬遠される ・原産国の表示が始まってからは、消費者から国産品の要望が強くなってきている。
みそ	<ul style="list-style-type: none"> ・国産原料は、安心して安全だ。産地指定されることもある。こだわり素材となる。 ・国産は高いので外国産を使用している ・天候に左右されやすい。
しょう油 ・食用アミノ酸	<ul style="list-style-type: none"> ・価格が高い ・品質があわない ・当社は白醤油製造のため、色の薄い小麦を希望。国産は色が濃いため使用が難しい。 ・そもそもの販売費が安価であり、国産原料費では販売費が追いつかない ・こだわりの原料ほど安定供給が難しい。 ・輸入に比べ、供給、品質、価格などに安定性がない。 ・大豆、小麦の国産生産量が少なすぎて、調達不安がある。国産大豆の価格は外国産に比べ、異常な高値となっている。
ソース	<ul style="list-style-type: none"> ・農作物の規格外品の有効消費システムが日本にはできていない ・ポジティブリスト制が施行され、安全安心な原料を仕入れる必要がある。 ・價格的にも供給量的にも国産原料の使用が難しい状況となっている。
その他の調味料	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥インフルエンザの影響があった ・中国原料（農産物）が不安定、ポジティブリスト等により、国産品が値上り ・農産物においては中国等の輸入原料価格と比較して、3倍前後と高いため、使用が難しい。 ・伝統的な和菓子を生産しているため ・すべて食酢の原料として使っているが、JAS 規格に野菜を原料に酢を造ることが想定されていないため、発酵によって造ったという醸造酢の名称が使えない。 ・主原料である大豆を国産でまかなう事は無理です。国内で生産される醤油の85～90%くらいが外国産といわれている。それだけの量を国産で確保できるのか。 ・安定供給してほしい ・国産大豆は、毎年、生産量、価格が安定しないので使用しにくい ・鯉日本一である鹿児島県産を売りにしている ・一番大きいのは外国産との差別化 ・産地表示義務により仕入れが複雑になった ・国産の海洋深層水を原料とした食塩、ミネラルウォーターを生産している ・顧客の要求（デリバリなど）の対応が必要 ・中国などに輸出が増加し、国内販売用の原価が上昇 ・輸入品との価格差が大きくて使えない。 ・国産、輸入を問わず、品質に優れているものを活用していく。 ・仕入価格の上昇により、活用は難しくなっている。商品に表示できる付加価値のあるものしか使用しにくい。 ・食酢使用加工品に柚などの果汁を使用することがあるが、品薄で集まりにくい。
糖類	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者保護が課題だ ・国産品は価格面、品質面共に輸入品に対して競争力がない。抱き合わせ政策により、消費業

	<p>界が割高な国産品の価格差を負担している。今のところ国産品は「国産品」と表示できることだけがその値打ちである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県の基幹作物であり、その生産が関連産業とともに地域の経済社会において重要な位置を占めている。 ・法に基づいた、国産糖農家保護を目的とした価格調整制度の下、需給が行われている。 ・当社は国産のさとうきびを原料に、砂糖を製造するメーカーのため、輸入原料の使用はあり得ない。 ・国産メーカーであるため輸入は行っていない。
小麦粉	<ul style="list-style-type: none"> ・地産地消の雰囲気あるも、生産者が不足している ・量と品質が安定していない ・国産は品質悪し。品質改良の必要あり。 ・国産小麦は減少し、単価上昇傾向にある ・品種、数量に割当てがある。 ・国産小麦の用途は麺用が圧倒的に多く、パン用には向かない。パン用小麦もあるが、輸入小麦に比べると割高である。 ・国産小麦は、日本めん用にはほぼ限定されている上、日本めん用においてもオーストラリア産小麦と比較した場合、品質、精粉性ともに劣る。また精粉業界では、外国産の内外価格差是正を要望しているが、助成金原資との関係で内麦を使えば使うほど内外価格差は縮小しない構造にある。
その他の精穀・精粉	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道産の農作物の天候による価格変動に苦慮している。安定供給できる対策が必要だ。 ・高級和菓子メーカーは国産にこだわる ・国産大豆の豊作、不作による価格変動の幅、確保量の差が大きすぎて安定経営が難しくなる場合があり、自給率向上のためにも、安定原料供給体制を国策として考えて欲しい ・原材料の原産地表示に伴い、国内産を指定する得意先が多くなった。 ・国産大豆、大麦を使用しているが、特に大麦について農家の担い手等の問題で 20 年産については激減するのでは、と危惧している。 ・天候（台風、大雨）による集荷変動が大きい ・大麦の生産量が減少していて、外国産原料を使用せざるを得ない。 ・高齢化による生産者の減少。スーパーによる製品の低価格販売。
パン	<ul style="list-style-type: none"> ・何故国産原料を使いたいかをもっとはっきりしたい ・国産品は、外国産と比べ消費者へのアピール、安心、安全が得られるが、コストをもう少し改善して欲しい。 ・和菓子等の使用材料のブランドによる販売訴求ができる。 ・国産は製パン性が悪い ・製造製品の価格が安いと、国内産を多く使用すると利益確保が難しい。 ・国産小麦の品質は、輸入品に比べて安定していない ・地域限定商品として、地元の特産品を使用した商品群がある。 ・国産小麦粉は、製パンには向かず、なおかつ値段が高い。
生菓子	<ul style="list-style-type: none"> ・国内産の上等の原材料使用により、風味の違いがある。それをアピールすることで差別化を図る ・業者経由で仕入れるため、産地が把握しづらい（国外のものも同様、直接輸入はしていない） ・老舗和菓子製造業であり、老舗ブランドを守るため中国産等は使用しない ・国産品でないと大手に対抗できない ・国内産のみ使用 ・FTA の締結等、農産物の自由化は避けられない。保護よりも、強化することで国際競争をつけて欲しい。 ・洋菓子に用いるリキュール等、上質の原料がない ・農産物は、最近の異常気象により収穫量が著しく落ちており、価格の上昇、並びに供給面で厳しくなっている。
米菓	<ul style="list-style-type: none"> ・日本より安い米が外国より入ってくる ・外国産は価格は低い甘みなど品質に問題があり、国産米は良好にて、ブランド確立にも一役買っている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・国産原料は価格が安定していない
その他のパン・菓子	<ul style="list-style-type: none"> ・加工時期が限られているため、その時の気象状況によって価格、数量の変動が大きく安定供給がない ・国産品にしかない風味、味、香りが重要 ・オリジナル商品、NB 商品で特品（ワングレードアップ品）として、決められた業者に対してのみ販売 ・安定供給が年度の出来高によって左右され厳しい状況にあるため、なかなか製品化が難しい。 ・他にない「こだわり」として国内産を使用 ・包材、輸送コストなど原油関連の上昇がみられる ・国産品原料は価格が高い ・国産は外国産の5倍と価格が高いが、生産量が少ない、全体の国産比率は10%以下である ・国産原料は数量、価格の安定性がない ・国産原料と輸入原料との価格差は3～5倍にもなる ・残留農薬のポジティブリスト制度に伴い、輸入が不安定になった。原料価格も上昇した。なんとかして欲しい！ ・カカオ豆は全量輸入に頼らざるを得ない ・香川県産のさとうきびでないと製造できない
動植物油脂	<ul style="list-style-type: none"> ・国産原料は全体の0.02～0.03%しか供給量がなく、価格も輸入原料の10～20倍になる ・オリーブ栽培特区による植樹（農園）拡大中 ・こめ糠の調達はキノコ及肥料、飼料との競合いになる
清涼飲料	<ul style="list-style-type: none"> ・国産品に手当出来る原料がない ・農協資本の会社であるため、国産原料に特化している。 ・消費の伸び悩み、価格の低下 ・取引先が国産原料を最優先に考え、製品作りを依頼されている。 ・加工用トマト生産者の高齢化、農業離れなど、栽培面積の減少に対し、奨励金や支援策を行い18年度は面積は増加したが、生産者減少への根本的な歯止めになっていない。退職者などへの農業従事者増加に向けての行政の施策が急務だ。 ・国産か外国産かは、商品コンセプトにより決定。
果実酒	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの国産ワインが輸入原料から造られており、国産原料100%との区別がされていない
ビール	<ul style="list-style-type: none"> ・（醸造用として）工業アルコールによって食酢を作っている。アルコールの自由化によって今後、使用量の多少によって仕入価格が変化してくるだろうと思う。
清酒	<ul style="list-style-type: none"> ・日本酒製造は伝統産業なので国産原料使用以外には考えられない ・「日本酒の原料は国産米」という固定観念があり、ビール他のように価格の安い外国産原料を使えない ・日本酒製造に付き、国産米（地元100%）使用 ・酒米なので ・清酒には国産新米が最適 ・国産米は価格が高く、清酒は酒類の酒類間の競争上不利である ・国産米は高価である。例えば、ビール、ワインに比べて競争酒類として原料費の面で厳しい面がある。反面、酒造好適米などの栽培にも一律に減反のしぼりがかかる。国として米、国酒に対する優遇は考えるべきだ。 ・国産の一部品種のみ、清酒の材料として適合する ・国酒である清酒において、原料は伝統的に国産米が使用されている。背景には過去の「米は輸入しない」という政府の政策があると考えられる ・国際価格に対して、国内産米の価格は異常と言えるほど高い。業界の健全性が損なわれ続けている。 ・原料米、国際価格比かなり高い ・酒米の安定供給 ・原料米は100%国産 ・日本酒の製造業なので国産の米をつかわざるを得ないです。外国産米を使う手もあるが、消費者に対して日本酒のイメージダウンの恐れがある。

	<ul style="list-style-type: none"> ・農家人口の減少
蒸留酒・混成酒	<ul style="list-style-type: none"> ・地元産原料を活用 ・甘藷の入荷が量的に減少傾向にある。 ・黄金千貴（芋） 各社増産により価格上昇 ・佐渡産原料を 100 % 使用している ・一部商品に付き国産 100 % としているものの、希望としては全商品に展開したい。しかし、不作や価格高騰などの事を考えると全体には踏み切れない。 ・商品品質のこだわりとして南九州産を使用している。
製茶	<ul style="list-style-type: none"> ・原産地表示のため地元産主体です ・外国産は農薬がこわい。国産で間に合う ・高齢化が進み、後継者がほとんどいないため小葉の生産高が年々減少している。小葉の代金も年々安くなり、生産意欲がなくなりつつある。 ・日本茶といえば静岡であるが、ここ数年環境等の問題もあり肥料を少なくおさえていることもあり、昔のようなコクが出ずに苦労している。温暖化の影響もあり、味が薄い。品種をブレンドして対応しているが、品種に関しては九州に頼らざるを得ない。静岡県でも品種の茶葉をもっと生産して欲しい。
コーヒー	<ul style="list-style-type: none"> ・日本で生産されない
めん類	<ul style="list-style-type: none"> ・地産地消 ・即席ラーメンの主原料は小麦粉、ラード、植物油脂であるが、これらがすべて輸入原料である。国内では生産量が少なく、品質、量ともに安定していない ・当社製品のビーフンはタイ米を原料とし、原料生産地において原麺を当社タイ工場にて製造、その全量を日本に輸入し、調理加工を日本で行なっている ・地元産の小麦粉を使った商品を販売しているが、売上は伸びない ・原産地表示が義務付けられると、ほとんど使用していない国産品に関しては、その都度表示を変更する必要が出てくるため、主原料から外さなければならなくなる。今後仕入方法や、基準、規格について考えている。 ・うどん製造には風味が良い国産にオーストラリア産をブレンドして使用、中華麺、パスタには準力、強力が必要なので外国産を原料として使用している ・天候による不作の場合、手当難と価格高騰が懸念される ・国産小麦の量の確保と価格の値下げが課題と考える ・国産原料を使用したほうがおいしい ・国産原料という消費者へのイメージはメリットがあるが、加工特性は輸入品に劣り、どちらかと言うと無理に使っている状態。 ・国産原料、国産をうたい文句にしている。 ・製品パッケージに「国産原材料使用」と表示してあるもの以外は、安全性、供給安定性などが原材料の選択要素となる。小麦粉については、メーカーが国産と指定しない限り、国産小麦を使用するか否かは基本的に精粉会社に任せている。 ・国産原料は、そば粉の価格が高い。
豆腐・油揚	<ul style="list-style-type: none"> ・大豆等は価格が高すぎる ・需要が増大すると価格が高騰する ・豆腐の原材料の大豆の価格が安定しないので、事業の継続が困難な状況にもなる。
冷凍調理食品	<ul style="list-style-type: none"> ・安心、安全な原料確保 ・気候の変化により農産物（キャベツ等）の価格は非常に不安定なので困る。 ・国産原料の価格が上昇している
惣菜	<ul style="list-style-type: none"> ・天候や気象条件によって、市場の価格変動が激しく、加工業者との値決め交渉を頻繁に実施している。市場の購入品については、毎月単価が変動しているため、標準単価が定まらない。 ・加工用きのこ、山菜類のほとんどは中国産塩蔵品での仕入となっている、国産原料取扱いが少ない理由としては、国産品は価格が高い、季節による価格変動や数量確保の困難さがある。このため取扱いやすい中国産にシフトされている ・天候に左右され、価格上昇が極端な時期がある

	<ul style="list-style-type: none"> ・弁当製造のため、米が主原料である。国産使用が多い。 ・鶏卵相場の振幅が近年大きすぎる。農水省の施策に疑問を感じる。中小に冷たい。 ・特に無い ・組合があり、自社調達は難しく、全てを確保できない ・PB での依頼は、商品価値を高める目的で、国産原料使用、産地指定（ブランド食材）の要望が高い。 ・PB が大部分を占めており、使用原料が取引先より指定されている。 ・受注から納品までのリードタイムが短いため、原料確保に振りまわされる。 ・生鮮品であるがゆえに（特に葉物野菜）輸入品の調達は困難 ・主に地場産を売りにしたい時には活用している。 ・国産原料は輸入品に比べて割高である。近年、安心安全の面から国産原料を使用するような依頼もあるが、価格面で折合いが見つからないのが現状である。 ・ポジティブリスト制施行に伴い、安全性を追及して行くためには、国産原料使用が必需。原産地表示による安全性の訴求（消費者に対するブランド価値の維持） ・栽培管理記録の必要性及び使用農薬の開示のため国産原料使用 ・弊社では国産品も使用していますが、数量や時期によって輸入品を使用しなければならない時もあり、比率は流動的です。 ・国産品は一次加工が輸入品と比較してレベルが低い。そのため自社の加工部分に負担が大きいので使いづらい。 ・IQ 枠のある水産原料が多い
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・生産量減少、市場縮小のため、業務用では中国産に競争で負ける ・製餡業の主原料は豆であり、特に世界一といわれる北海道の小豆を広く活用している ・年間を通じ安定的な生産が確保できない ・塩蔵赤しそ等の農産物は年契約で委託栽培している ・国産は外国産に比べ肉類、野菜類の価格が高い ・原料表示や原産地表示に対する消費者の関心が高まっており、国内産に対しての安心感を求める声が大きいように思える ・駅弁製造業のため可能な限り地元の産物、加工品の使用に努めている ・価格、及び時期調達力が重要 ・外国品と比べ価格が高い ・「こだわりの産地からしか仕入れない」というこだわりで、優位に販売している ・清酒販売量の減少及び、製造方法の変更等による酒粕産出量の減少 ・通年を通じての均等確保が難しい ・製品の使用者にとって外国産は未だ受け入れにくい ・日本の中の手パン屋、大手和菓子メーカーは90%以上の輸入加糖餡を使用している。よって約10万トン強は、道産小豆の35000～37000俵に当ります。これでは北海道農業が潰れてしまいます。 ・関税割当のベース（但し、19年4月1日より制度変更） ・生産コストを無視した低価格を強要されている業者があるため、業界全体の体力が落ちている。多くの店が廃業を考えている。 ・日本では気候風土により収穫出来ない ・品質と安全性において国産品が有利 ・国産品の品質の良さを売りにしている ・原料指定の場合のみ国産 ・米、もち米の年度相場により変動で価格が変わってくる。季節変動にもよるが、変動率を安定できれば・・・過備米か？ ・国産の良質の小粒大豆が少ないため、全て大手業者に確保されてしまい、手に入りにくい。 ・国産原料使用の利点は、トレサビリティがしっかりしていること

